



うめきた外庭SQUARE

南北に分かれたゾーンの照明演出を「街演出クラウド YOI-en」で実現

大阪駅前の貨物ヤード跡地では、2013年に開業したグランフロント大阪の先行開発区域に続き、うめきた2期地区開発プロジェクトが進んでいる。その開発隣接地に期間限定で造られた屋外型実証フィールド「うめきた外庭SQUARE」で、地域や協力企業などにより、未来のまちづくりに向けた実証実験が展開されている。ここで、2022年10月7日から3日間、パナソニックグループの関西25・30プロジェクトの一環で開催されたのが、次世代アートやスポーツの体験イベント「OSOTOでSPORTS」。そのコンテンツの一つが京都をテーマにした照明・

映像・ミストによる空間演出で京都観光をバーチャル体験する試み。照明とミストの演出にスペースプレーヤーの映像を加えることにより、京都の川床を再現。さらに、アーティスト 村松 亮太郎/NAKEDによるアートプロジェクト「DANDELION PROJECT」と連携し、「街演出クラウド YOI-en」による照明、デジタルサイネージソリューション「AcroSign®」を用いた映像で、体験型アート展を実施した。照明演出システムをクラウドにつなげることで、遠隔操作や広域・多拠点にわたる演出を可能にする「YOI-en」を採用。これにより、通路を挟んで南北に分かれている2つのエリアの照明演出連動を実現している。

人工芝のノースエリアで展開された京都の川床を照明・映像・ミストで演出するバーチャル体験では、「スペースプレーヤー」が水のイメージをミストに投射。3日間のイベント期間中には約2,000人が来場した

うめきた外庭SQUARE

所在地／大阪市北区中津
主催／パナソニックグループ
期間／2022年10月7～9日



サウスエリアのステージは「街演出クラウド YOI-en」によって、ノースエリアと連動してダイナベインターによるフルカラー演出が行われた



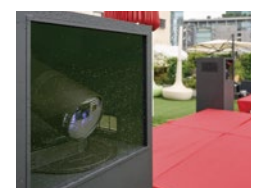
ノースエリアの中心に設置された、世界と繋がる参加型アート「DANDELION PROJECT」



サイネージのアバターがビールを販売している自動搬送ロボット「X-Area Robo」



シルキーファインミストとDMXスポットライトをDMX信号で一括制御



水のイメージを投射する「スペースプレーヤー」



「アーキルミナ」の光がアイキャッチとなり人をいざなう

主な納入設備

- 街演出クラウド YOI-en
- アーキルミナ
- DMXスポットライト
- ダイナベインター
- スペースプレーヤー
- AcroSign®
- シルキーファインミスト
- 自動搬送ロボット「X-Area Robo」

ウェブサイトでもご覧いただけます

